先輩からのメッセージ

School of Economics

可能性を広げてみませんか

経済学部経済 経営学科2年3期生　**田原 愛美**

皆さんは将来どんな仕事につきたいですか？まだはっきり決めてない、という人のほうが多いかもしれませんが、経済学は社会生活との深かりがあります。ぜひ、社会人になったときにどうやって学問だと思います。

経済学部では経営や会計、マーケティングなどの企業分析分野、財政や金融といった経済システム分野など、経済について幅広い内容を学ぶことができます。講義では ニュースなどを用いたことのある題材を扱ったり、企業で働いている方の話を聞く機会もあります。とても興味深い話がでます。

また、公認会計士や税理士など会計のスペシャリストを目指す学生も多く、ひとりひとりが将来に向けて充実した学生生活を送っています。

経済学部は将来への道を切り開くことのできる幅広い人にとこころです。皆さんも、経済学部で自分の可能性を広げてみませんか。

School of Medicine

自分を高める無限のチャンス

医学部医学科平成24年3月卒業　**中谷 未央**

医学部では人体や病気に関する講義の他に解剖実習、研究室での実験や、大学病院の臨床の現場で患者さんを通して実践的なことを学ぶ授業が行われています。どれも実際に医師としての仕事に直結することなので常に緊張感を持って臨んでいます。

医療現場で実際に医師として働いていらっしゃる先生方や研究者として第一線で活躍していらっしゃる先生方の講義はとても興味深く、同じ医師を志す仲間と切磋琢磨しながら良い刺激を受けることができます。病棟実習では1年半ですべてを学ぶ。先生方の指導の下で手技の練習をやらい、患者さんを担当させていただきます。教科書で勉強した事よりも、やはり患者さんから学ばせていただいた事の方が深く心に残ります。実際の医療を目 間近 ることで将来の仕事へのイメージや夢 も膨らみます。部活動も非常に盛んで、多くの学生が運動や音楽などの活動に取 しんでおり、勉強とのめりはりをつけて学生生活を楽しんでいます。

また、総合大学であるため大学は海外に様々な提携校をもしています。学期毎にも多くの提携校があり、私もこの制度を利用してケンブリッジ大学や他は大学で夏休 会を得ることができました。また、日本医学教育振興財団の主催する医学留学プログラムでロンドン大学病院にて実際の医療現場に触れてきました。

海外に も目を向けて外から日本を見てみることによって、知識だけではなく各国の文化に基づく医療についての視野が深 まり、日本の医療制度について更なる視点から考察する機会を得ることができます。

大学には設備や学習環境が充実していて、知的好奇心を最大限に満たすことができる世界が広がっています。医師としての準備期間である大学の6年間で大学をおおいに活用しながら医学以外の事にもたくさん経験して、多くの人と触れ合い、積極的に海外に出て勉強して視野を広げ、自分を高めてください。

School of Pharmaceutical Science

たくさんのことを学べる場所です

薬学部臨床薬学科
薬剤師養成6学年合格 学部卒　**本田 涼子**

臨床薬学科では薬学の幅広い知識を習得することができます。実務実習は九州大学病院で行われます。そこで、高度な医療の現場を見て、実際に業務を経験することで多くのことを考え、仲間や先生方と議論していくことで自身のスキル向上へつながります。

4年次から1年、研究室で各専門分野に分かれ、研究をおこっています。興味の対象は臨床の現場で使うことはあまりありませんが、患者さんに直接関がだらな課程で色々行っているのが全般ということは自分の強みになっていると思います。

薬学部はとても友愛するこころ。イメージがあるかもしれませんが、サークルや学祭などのイベントでしっかり楽しむことが出来ます。いい刺激をたくさん与えてくれるクラスの仲間や先輩方もたくさんいます。みなさんもこの九州大学で充実した学生生活を送ってみませんか？

School of Education

教育学を学ぶ

教育学部4年　**郡司 佳苗**

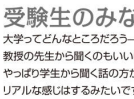
九州大学の教育学部を受けようと考えている皆さんの中には、将来、教員や臨床心理士になるための知識がしたいと考えている人が多いかと思います。しかし、ここで学べることとはそれだけではありません。九大の教育学部の魅力は、広い意味での「教育学」を学べることにあります。教育学は、人間に関する あらゆるものを対象としています。そのため、はじめのうちは、「これは本当に教育と関係があるんだろうか」と思うものがあるほど、さまざまなものに触れることができます。教育学部に入って、先生方の講義を聞くことで、自分の興味ややりたいことが深まったり、新たに見えてくると思います。

また、教育学部の魅力は、一学年の人数が50人と少ないため、同学年はもちろん、異学年の間でも学生同士の交流が多くあるところにもあります。間口の広いゼミ同士、またはまったく違う視点から教育学を見ている人との出会いによって、自分の可能性を広げられると思います。また、教育学部には、授業以外で実践的な学びができるようなサークルがたくさんあります。ESS等、楽し、考えることで、思いもよらなかったような学びがあるかもしれません。

教育学部では、自 ら が望めば、多くのことを学ぶことができます。あとは、自 ら の興味のままに色んなものに関心や疑問を持ち、探究してみようという気持ちがあれば、教員や周 りの学生の力を借りつつ、充実した大学生活を送ることができると思います。そんな九大教育学部に来てみませんか？

受験生のみなさんへ！

大学ってどんなところだろう――。
教授の先生から聞くのもいいけれど、
やっぱり学生から聞く話の方がナマというか、
リアルな感じはするみたいです。



School of Agriculture

興味に応える農学部

生物資源環境科学府博士前期生 物科学専攻
植物生産生理学研究室　修士2年　**塩田 拓之**

私は、農業や環境問題に関する勉強がしたくて農学部に入学しました。入学してから1年半は一般教養に加え、農学部の幅広いコース・分野の授業を受けました。この期間に農業生産に見献できる研究に興味を持ったので、生物資源生産科学コースの農学分野への配属を希望しました。2年生後期に農学分野に配属され、植物育種学、作物学、園芸学、植物生産生理学、植物病理学、昆虫学、農学化学と各分野に関連する講義や学生実験を通して専門的な知識を学びました。また、九州大学の農場や高原で実験の実習や中の世話などを行う実習もあり、座学にはない貴重な体験をしました。農学分野の講義を受けていくうちに、植物生産生理学の研究内容に面白みを感じたため、3年前期に同研究室を希望し、4年次にはイネの遺伝資源と窒素の光合成能力の種間差を テーマ に卒業研究に取り組みました。

最近、食や環境に対する関心が高まり、農学部の果たす役割はより重要になっています。九大農学部には、生命科学、環境工学、社会科学など 全 な 各種の学問分野が揃 い、多角的な視点から 「農業」、「食」、「環境」に関 する研究を行っています。ぜひ九大農学部のホームページやオープンキャンパスを利用して色々研究分野に触れてみてください。皆さんの興味が持てる分野がきっと見つかるはずです。皆さんが九大農学部で有意義な学生生活を送れることを願っています。

School of Dentistry

歯学部での学生生活って？

歯学部5年　**田川 晴菜**

私が高校のころ想像していた歯学部とは、「歯のことだけを勉強して歯医師になり歯おろ りする練習をするようなものでした。しかし入学して驚いたことは、「人体解剖をしてお身の構造を学び、そして生化学や生理学、病理学など医学部と同じ学問を学んで、ひと が生きていくうえでのメカニズムや病気になる仕組みをしっかり身に付けたうえで三都のことについて勉強する」ということです。それは、全身疾患の一部が口腔領域に関わることが多い、口の健康が全体の健康と密接に関係していて、歯科医師がそれを理解しておくことがとても重要だからです。

学年が上がるにつれて歯学部ならではの教科も増え、とても充実しています。それから歯学部の他の学部と違うところは、クラスの人数が少ないが故 に 一年 から 六年生 までの学生がとても仲が良く、さまざまなイベントもあり学生生活が楽しく過ごせるところです。仲良くなった同期や先輩、後輩とは将来歯科医師になってからも切磋琢磨 し 合 う 最 重 な 存 在 になっていくと思っています。皆さんも ぜひ 歯学部で六年間一緒に楽しい学生生活を送ってみましょう。

School of Law

受験生へのメッセージ

法学部4年3年次卒業　**吉永 美紀**

大学は、社会に出る一歩手前の段階であり、人生の大きな岐路の一つになり得るほど重要なものです。大学生活が不の後の人生を左右するといっても過言ではありません。そこで、受験生の皆さんに、法学部ではどのようなことを学習・体験できるのかをご紹介したいと思います。

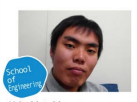
まずは授業についてですが、そもそも法律学自体は、あらゆる分野と深く関わっており、多種 の 幅 広 い 学 問 です。憲法・民法・刑法等は ご 存 知 か も し れ ま せ ん が、それ以 外 も、たとえば、国際関係学 や い 学 問 分 野 は、ニュースに出てくる ん う な世界規模の問題を 解 け る。法 制 度 い う 分 野 では、日本・西洋・東洋それぞれにおける法の歴史とその背景にある思想を学 ぶ し ま す。そ の ほ か に も た く さ ん の 授 業 が 開 講 されています。さらに、法学部は学 科 が な く、上記の授業を自由に選択して受講することができるため、どれかに重点を置いて学習することもできます。パラ ン ス よ く ひ と つ の こ と に こ だ わ れ ず に 多 様 な 分野を学習することもできます。

専門的な授業が多くなってくるのは2年生の終わりからです。1年生の時には「LPセミナー」といって、法律の実務家（弁護士・検察官・裁判官）の方々に直接し 国 会 講 義 を し て も ら う こ と い う セ ミ ナ ー が あ ります。そして、講義の最後には実務家の方々と学生で「模擬裁判」を実施します。1年生のときから実際に法律がどのように適用されているのか、実務家がどのように仕事をしているのかを知ることができ、とても魅力的な体験できることは間違いありません。

3年生からは少人数のゼミに所属し、1・4年生にて専門分野を研究していきます（私は憲法ゼミと日本法制史ゼミの二つに所属していました）。高校までは誰かと議論をする機会はあまりないと思いますが、ゼミでは学生同士はもちろんのこと、先生 と も 意見を交換し合い議論をします。ゼミのあとには飲で飲を食べたり、時には旅行に行ったりして、勉強だけでなく、交友関係を広げ、深めることができるのも ゼミの醍醐味です。

講義についても、法科大学院・研究大学院への進学、国家一般の公務員、公務員・公認会計士等、幅広く選ぶあり、それぞれが自分にあった仕事を柔軟に選択できる環境にあります（私は トヨタ 自動車に就職しました）。

このように、法学部では1年生から4年生まで、毎日充実した日々を送ることができます。皆さんも是非、満ち溢ちた大学生活を送れるよう、頑張ってください！



School of Engineering

積極性を持って

システム情報科学府 情報学専攻 修士2年　**園田 尚人**

皆さんの工学部のイメージはどのようなものでしょうか。一言で工学部といっても、その分野は機械やエネルギー、電気、建築など多岐にわたり、これも現代の社会生活に関連の深い分野ばかりです。そすでから、我々の研究の成果が、生活の利便性に直結していると言っても過言ではないでしょう。そんなかで多くの学生が興味の強い分野に対して日々勉学に励んでいます。

九州大学では、入学して一年半は主に教養科目を学ぶことになります。これは現在の授業の延長のようなものですから、「大学で専門分野の勉強をするぞ！」と気合を入れて入学していらっしゃ 行 な 目 に してしまうかもしれません。ぬ の 在 籍 していて 電 気 情報工学科は、この時期から専門科目の講義もそれなりにあり、最も講義に時間を割いていた時期でした。

二年後期からは、いよいよ工学部の専門分野についての勉強が中心になります。この頃から講義の内容もだんだん難しくなり、実験科目も始まって大変になってきますが、やりがいも大きくなってきます。

そして四年になると研究室に配属されて、自分の興味のあるテーマについて研究をしていくことになります。研究は本当に手探りの世界で大変ですし、力が、大学4年間の中で最も自分に力がついたと感じました。

その後、工学部の学生の多くは大学院へ進学しより高度な研究をしていくことになります。

大学では積極的に学ぶ姿勢が大事です。高校までのように思考で講義を聞いているだけでと、わからないことがたくさん出てきます。そこで、先生方への質問や図書館の活用が重要になってきます。自 ら 積極的 に 学ぼうとする 姿勢 が あるほど、自分を成長させることができます。

また、大学生活は勉強ばかりがすべてではありません。大学では、高校までに比べると多くの自由な時間があります。工学部は必修科目も多く、実験にも時間を取られるので、他の学部に比べると 自 由 な 時間はかなりいかもしれません。それでも高校のころよりまシはます。私は、バイトとサークル活動を通して、多くの友人と出会うことができましたし、おかげで大学生活がより充実したものになったと思っています。ですから、この時期を利用して大学の時しかできないことを積極的にしてみてください。多くの経験や出会いがあるはずです。

大学の4年間というのは、社会に出る前のとても重要な時期です。この期間をむかすも松ずも自分次第。将来の夢をかなえるためにも、ぜひ様々なことに積極性を持って、チャレンジしてください。

School of Science

サイエンスを学べ

理学部 物理学専攻
博士後期課程3年　**襄茂 工将**

私は、自然界の中でも素粒子などのミクロな世界に興味があり、九大理学部の物理学科に入学しました。学部4年間と大学院修士課程2年間を経て、現在は大学院博士課程に在籍し、日夜、物理の研究に励んでいます。研究室メンバーとは和気藹藹の温かく、恵まれた環境にあります。そのような同世代と共に、研究に限らない多くのことを学びながら、忙しくも充実した研究生活を送っています。

研究の趣味はやはり、全く未知の事柄を解明していくお話だと思えるでしょう。自分の知識と経験、そして直感を基に試行錯誤を繰り返し、最実に正解へと歩み寄進めるのが研究です。一筋縄ではいかない分、成果が出ゆ ら れ た ときの喜びは一入に感じられます。また、学位修士のための全国年間 び 回 る、様々な方と話ができるのは非常に刺激 と な る。そんなかで多くの学生が興味の強い分野に対して日々勉学に励んでいます。

九州大学では、入学して一年半は主に教養科目を学ぶことになります。これは現在の授業の延長のようなものですから、「大学で専門分野の勉強をするぞ！」と気合を入れて入学していらっしゃ 行 な 目 に してしまうかもしれません。ぬ の 在 籍 していて 電 気 情報工学科は、この時期から専門科目の講義もそれなりにあり、最も講義に時間を割いていた時期でした。

二年後期からは、いよいよ工学部の専門分野についての勉強が中心になります。この頃から講義の内容もだんだん難しくなり、実験科目も始まって大変になってきますが、やりがいも大きくなってきます。

そして四年になると研究室に配属されて、自分の興味のあるテーマについて研究をしていくことになります。研究は本当に手探りの世界で大変ですし、力が、大学4年間の中で最も自分に力がついたと感じました。

その後、工学部の学生の多くは大学院へ進学しより高度な研究をしていくことになります。

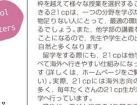
大学では積極的に学ぶ姿勢が大事です。高校までのように思考で講義を聞いているだけでと、わからないことがたくさん出てきます。そこで、先生方への質問や図書館の活用が重要になってきます。自 ら 積極的 に 学ぼうとする 姿勢 が あるほど、自分を成長させることができます。

また、大学生活は勉強ばかりがすべてではありません。大学では、高校までに比べると多くの自由な時間があります。工学部は必修科目も多く、実験にも時間を取られるので、他の学部に比べると 自 由 な 時間はかなりいかもしれません。それでも高校のころよりまシはます。私は、バイトとサークル活動を通して、多くの友人と出会うことができましたし、おかげで大学生活がより充実したものになったと思っています。ですから、この時期を利用して大学の時しかできないことを積極的にしてみてください。多くの経験や出会いがあるはずです。

3年生からは少人数のゼミに所属し、1・4年生にて専門分野を研究していきます（私は憲法ゼミと日本法制史ゼミの二つに所属していました）。高校までは誰かと議論をする機会はあまりないと思いますが、ゼミでは学生同士はもちろんのこと、先生 と も 意見を交換し合い議論をします。ゼミのあとには飲で飲を食べたり、時には旅行に行ったりして、勉強だけでなく、交友関係を広げ、深めることができるのも ゼミの醍醐味です。

講義についても、法科大学院・研究大学院への進学、国家一般の公務員、公務員・公認会計士等、幅広く選ぶあり、それぞれが自分にあった仕事を柔軟に選択できる環境にあります（私は トヨタ 自動車に就職しました）。

このように、法学部では1年生から4年生まで、毎日充実した日々を送ることができます。皆さんも是非、満ち溢ちた大学生活を送れるよう、頑張ってください！



School of Letters

受験生へのメッセージ

文学部 哲4年3年次卒業
人文科学科 修士1年　**田中 美彩都**

皆さんは大学で何を学びたいかすでに決まっているでしょうか？文学部は、専攻 そ れ に 絞 め い る 人 に も、色 々 と 興味 が あ って決めきれない人にも、開かれた学部と言えます。というのは、文学部は「哲学」「歴史学」「文学」「人間科学」という4つのコースの下に、更に2・1 もの専門分野があるのだ、選択肢が非常に幅広いのです。1年生のあいに専門分野の希望調を提出する ため、教養課程の間 に じっ くりと じ の研究室に入るかを決めることができます。

他学部 に比べて早い段階から研究室に入ることができるのも、文学部の魅力の一つです。先生方や先輩方との交流を通して、大学における「学問」とはどういうものかを知ることができます。また、2年半のあいだ研究室で共に過ごす同級生や後輩たちは、大学生活の大事な仲間と なるはずです。

このように書くと、文学部では専門分野一辺倒で大学生活が終わってしまうのではないかと不安になるかもしれませんが、大丈夫です。時間と余裕さえ生じれば、他の専攻分野の講義を取ることも可能です。また、サークル活動やアルバイトをすることで、他学部や他校の人たちとの出会いもあります。さらに、九大は交換留学の制度が整っているので、これを利用しないテ手はありません。文学部は必修が少なく時間割の自由度が高いので、こうした専門以外のことにも多く時間を割けると思います。

私は、もともと朝鮮半島の情勢に関心があり、朝鮮史を通じて新しい側面から日本史を知ることができるという魅惑の誘惑がきっかけで、朝鮮史学研究室に入りました。研究室の講義は演習の読解中心です が、皆 で 日 本 や 韓 国 で 実 際 に 調 査 を 見 る ことも大事にしています。まはじめは分からないことだらけでしたが 研究室はとてもアットホームな雰囲気で、演文の読み方 も 教 え ら れ ま す。研究とは何かということまで気遣ってくださんのことを教えていただき、何けがまで頑 り 明 か が ご ざ こ ろ な ば ば ば